



# 鎮守の森だより

NPO 法人社叢学会ニュース

第 15 号

2005 年 5 月 16 日

## 平成 17 年度総会開催迫る

6 月 4 日 真清田神社参集殿で

6 月 4 日（土）に真清田神社参集殿で開催される今年の年次総会・大会の概要が下記の通り決まりました。参加希望者は 5 月 27 日までに事務局へ葉書（〒604-8115 京都市中京区雁金町 373 番地 みよいビル 303 号）FAX（075-212-2916）メール（shasou@ams.odn.ne.jp）でご連絡下さい。また懇親会（会費 3 千円）出席希望者はその旨、ご記入下さい。なお、正会員で欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。

また、前日（6 月 3 日）には愛・地球博長久手会場愛・地球広場において、神宮式年遷宮事業を紹介するイベントを行います。この機会にぜひ博覧会もご見学下さい。

時	内 容・講 師	
10:00～10:45	年次総会	
11:00～12:30	研究発表会 屋敷神とその御神木の諸相 社叢の文化財指定をめぐる現状と課題 濃尾平野はいかにつくられたか	発表者 芦田一夫 林 進 田中充子
12:30～13:30	昼食（13:00～ハイビジョン映像作品「日本は森の国」上映）	
13:30～18:00	愛・地球博出展記念シンポジウム 「森、水といのち」～社叢が育む生命の根源～	
13:30～13:45	開催挨拶 上田正昭（社叢学会理事長）	
13:45～15:00	基調講演「鎮守の森とこれからの日本の風土性」 オーギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院教授）	
15:00～15:30	休 憩（ハイビジョン映像作品「日本は森の国」上映）	
15:30～17:30	パネルディスカッション パネリスト：オーギュスタン・ベルク 大崎正治（國學院大學経済学部教授） 李春子（京都大学大学院人間・環境研究科博士課程修了） 上田篤（社叢学会副理事長・京都精華大学名誉教授） コーディネーター：園田稔（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）	
17:30～18:00	総括 米山俊直（社叢学会理事・京都大学名誉教授）	
18:00～19:00	懇 親 会	

## 木と森の民俗信仰

講師 野本寛一（近畿大学教授）

森について考えようとするれば、森を形成する木についても考えなければならないし、一部に森とその概念を交錯させている山についても避けて通ることはできない。森というものは、信仰を核にしながら非常に多様な側面を持っている。ここでは、実に多様な禁忌を生み出し、それらを伝承してきた森を民俗学の視座から類別する。

**禁伐樹の伝承** 禁伐伝承を持つ木々の樹相を概観すると、それらは「窓木」「三又木」「箒木」などと称され、普通の木とは異なる樹相をしている。人々はそこに神意を感じ、そこから禁伐伝承が生まれてきたと考えられる。そうした木々が山や森の核となり、巨樹化し、山の神・荒神・峠神などの神木となり、峠や道の標木となって人々に恵みを与えつづけ、さらにその命は永らえてきた。

**霊の森** 信仰にかかわる森として広く知られているのが、福井県若狭の「ニソの森」と鹿児島県の「モイドン」で、両者ともに民俗学の森の研究で早くから注目されている。これらの森は、同族的な祖霊を森の中に祀り、禁足地「入らずの森」であり、禁伐はもとより、森の中の枝葉まで持ち出し、使用を禁じている。又、クセヂ・クセ山・バチ山などと呼ばれる祖霊でない霊の森がある。これは人の横死を伝える森で、禁伐地、入らずの森として語り伝えられることが多い。奈良県では、祟りの地のことを「フヂ」という。

**神の森** 和歌山県の熊野地方には、矢倉神社と呼ばれる無社殿神社が多くある。楠・椎・カン類・椿などの照葉樹の森自体を神座とするものである。この地方には「社殿や鳥居を建てるなら、社地の樹木より建てなければならない」という伝承がある。これは「森の絶対性」を強く主張し、森を信仰する一族の意志がかいま見える。宮崎県椎葉村にニタ山の神というのがあり、「ニタ」とは「ヌタ場」のことで、猪や鹿がヌタズリをする場である。ニタ山は北

向きの窪地で水の湧く所である。そこには必ず森がある。ニタ場の木を伐ると必ず祟りがあると伝えられている。

**防災の森** 宮崎県椎葉村では、山地崩落、山崩れのことを「クエ」と呼び、クエ防止のために屋敷の裏山を中心として、時には屋敷の横に「屋敷荒神」を祀る習慣が根強く伝えられている。そうした屋敷荒神は、全てと言ってよいほど巨樹・古木の生い茂る森の中に祀られている。

**救荒の森** 飢饉を救う森として、柳田国男の『遠野物語拾遺』の中に「竜ノ森」という話がある。その森には大層古い桁の木が数本あって、秋には数十俵の桁の実を恵んでくれる。その実が、飢饉の際に村人たちの命を救ってくれたのである。村人は森を敬い、この森に棲む小動物や森を流れる川の魚類を獲ったり、草花までも採集することを禁じた。又、奄美大島の西方に枝手久(いだと)島という無人島がある。島全体が巨大な森となっており、椎の実の宝庫として知られていた。しかし、この島へは飢饉の際に限ってのみ地域の人々が椎の実を拾いに入ることを許された。椎の実を島に拾いに行き死んだ村の娘の話、琉球の船が座礁し積んでいた大量のハブが島に上陸したという話などは、この島を「入らずの島」として守る伝承といえる。

**巨樹の諸相** 巨樹とは何か？ 神木や伝承木といった霊性、恵与性や指標性といった実用性の二面から考えなければならない。霊性については先述の森の類別のごとくである。恵与性の第1は人の食料となり、種を恵み、鳥獣を集める木の実を恵んでくれることである。さらに、燃料としての落葉を恵む木、樹陰・緑陰をつくる木などもそのひとつである。指標性については、道標木・境界木・漁撈の当て木・航行の標木となる生活生業的指標、神社社叢の木・埋葬地や墓所の木・禁足地の標木となる信仰的指標に分類することができる。

### 次回予告(第16回関西定例研究会)

日時：2005年7月23日(土) 14:00~16:00

場所：未定

テーマ：未定

講師：和田 萃(京都教育大学教授)

## 三鷹市の社叢分布と樹種構成

講師 濱野周泰 (東京農業大学助教授 社叢学会理事)  
コメンテータ 奥富 清 (東京農工大学名誉教授 社叢学会理事)

1.はじめに 三鷹市内には11カ所の神社がある。これらの社叢は、敷地の形態、周辺の土地利用、勧請の背景による立地との関係、生育している樹木の種類と大きさ等に変化が見られる。

11箇所の社叢について現地調査を実施し、その結果に基づいて問題点を整理することにより、歴史的緑地の保全・活用策を検討することを目的とする。

### 2. 社叢の概況および現況

(1) 歴史性 調査対象とした11箇所の神社の勧請は、まず中世武将の土着による村落形成に結びついている牟礼神明社、中嶋神社、新川勝淵神社等がある。その後、新田開発に伴い勧請された野崎八幡神社、上連雀神明社、下連雀八幡神社等がある。

(2) 地形および立地 新田開発に伴い勧請した神社はほぼ平坦地に位置している。中世に勧請した神社のうち集落形成に伴い勧請された牟礼神明社、新川勝淵神社等は丘陵の南斜面に位置し、その他の神社は平坦地に位置している。市内は起伏の少ない平坦な地形であることがわかる。

(3) 樹林・樹木の構成と大きさ 今回調査を行なった神社のほとんどにおいて、サワラやヒノキの針葉樹とシラカシ、ケヤキ等の広葉樹の針広混交林が形成されていることが確認された。丘陵南斜面の神社ではイヌシデ等の落葉樹主体となっており、明るい樹林を形成している。これらの武蔵野の植生を代表する樹木の存在も確認された。

樹高10m以上の大木がある神社は10ヶ所あり、そのうちの8ヶ所では約6割を占めている。そのほとんどは、シラカシやクスノキ等常緑広葉樹が占めており荘厳な雰囲気を作り出している。

(4) 管理状況 5カ所で常駐または通いの管理人がいる。そのうち1カ所では神官が常駐し、もう1カ所は通いである。社叢の日常的管理は、主に氏子等によって行われているようである。また管理人がいる神社では、これらの人々によって落ち葉掃き等が行われているようである。

### 3. 課題の整理

丘陵南斜面の神社では周辺の開発や近隣の住宅

の接近は、比較的少ないようである。昔の自然を連想させることのできる神社として位置づけられる。

平坦地に位置し住宅が隣接しているような神社では、社叢の樹木が少ない傾向にあり、樹形が強剪定により変形しているなど、緑被率が低い状態にある。このことは落葉・落枝や、日照阻害による周辺住民の苦情が関係していると考えられる。周辺住民の緑に対する文化性を高めることが、地域と社叢が一体化するためには必要なことであろう。

### 4. 保全・活用方策の検討

(1) 保全・修復対策 今回の調査で、市内のほぼ全ての社叢に大木が多く存在していることが分かった。半数の神社においては、樹木の本数が多く枝葉が良く繁茂していることから緑被率も高く、神木と呼ばれる巨木も確認されている。

一方で枯死してしまっている樹木や病気に冒された樹木には深刻な状態の個体もあった。樹木の育成不良や発病する理由として、不適切な管理や、踏圧による土壌環境の悪化が挙げられるが、この対策方法としては樹木に囲いをする等、今後土壌を健全に保つための検討が必要である。

また、ほとんど高木だけで構成されている社叢については、森としての生態を安定させる為に中木・低木の植栽を行うことが望ましい。これには防風や防音等緑地としての機能的な効果もあり、また維持・存続の上で後継樹を育てる意味を持っていると考えられる。

また数箇所の神社では、武蔵野の樹林の面影を残しており、歴史的緑地として保全していく必要があると考えられる。

(2) 活用対策 近年、都市域の緑地において、大木や古木を見かける機会が減少しているように感じられる。大木になるまでの時間は歴史の集積でもあり、今後社叢がもつ歴史的価値を広く認識させる必要があると考えられる。環境教育の一貫、大木の散策コースという利用があろう。

(文責：古山道太)

## 次回予告(第16回関東定例研究会)

日時：2005年7月23日(土) 14:00～

場所：井草八幡宮エクスカージョン

コーディネータ：青木いづみ(東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手)

平成 17 年度総会のスケジュールをトップページでご紹介しましたが、今回は特に「愛・地球博」への協賛出展を記念したシンポジウム内容となっております。奮ってご参加下さい。正会員の方には、総会への出欠葉書を同封させて頂きましたので、5 月 27 日までにご返送頂きたくお願い申し上げます。

社叢インストラクター養成講座の第 2 回実施要綱(案)を同封致しました。この講座は、社叢の保全管理および鎮守の森などの社叢調査の指導者の養成を目的としております。今回は特に社叢調査の実習に重点をおいております。受講ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

3 月にご送付しました「鎮守の森だより」(第号)で平成 17 年度の会費納入のお願いを致しました際、「振込用紙同封」と記しましたが、当事務局の都合により今回になりましたこと、お詫び申し上げます。会費納入、何卒よろしくお願い申し上げます。

『社叢学研究』(第 3 号)の刊行が大幅に遅れ、3 月にお届けする予定がこの時期になってしまいましたこと、深くお詫び致します。編集スタッフも一新し、これを機にさらに充実した誌面づくりに励みます。

急激な市町村の合併により、歴史的地名が消えたり、聞きなれない地名をしばしば耳にする昨今ですが、この一連の合併で住所が地名変更された方は、新住所と郵便番号をご連絡下さい。

上田正昭理事長が「鎮守の森から地球環境問題を考える」と題して、放送大学で 3 回にわたって特別講義されます。第 1 回(5 月 8 日)は終わりましたが、次回の放送日時は 7 月 23 日 23:00~、9 月 7 日 8:15~となっております。

愛・地球博「千年の森」のその後を報告しなくちゃ。内覧会ではリニアモーターカーに人が乗りすぎて浮き上がらなくなったり(ま、たしかに重過ぎると浮かないよな) 入場の時の持ち物検査(中学生かよお)にえらい時間がかかったりで入場に一苦労だったので、開幕日はどうなることか(一説では入場者は 15 万人とか言われてさ)とちょっとどきどき。

ところが... この日は内覧会よりも少なかったくらいで肩透かし。やたら目につくガードマンに「千年の森ってどこですかぁ」と聞いても、「そんなありません」とか言われるし...。様子を見に来た協会スタッフは「事務所は電話とかががんがんで混乱状態なのに、ここは別世界ですねえ。いいな、静かだ」てなことを言うし。その静けさのお陰か、東屋の正面の木には鳥が巣を作ってるんだから!

でも、連休中の 5 月 4 日には 1 日に 300 人も人がいらしてくださって(平日は、何を隠そう! 50 人入れれば多い方...) この日の管理ボランティアだった O 理事がてんでご舞いだったそう。

地元ボランティアの皆さまのお陰で管理業務もスムーズに行き、あとは 6 月 3 日・4 日のイベントとシンポジウムかぁ。がんばる...

(藤岡 郁)

#### 今後の中部定例研究会の予定

第 6 回目: 7 月 23 日(土) 13:30-16:00

会場: 諏訪大社下社(長野県)

\* 遠来者の宿泊も含めた懇親会を行います。

第 7 回目: 10 月 8 日(土) 13:30-16:00

会場: 多賀大社(滋賀県)

第 8 回目: 平成 18 年 3 月 11 日(土) 13:30-16:00

会場: 小国神社(静岡県)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町西入雁金町 373 番地  
みよいビル 303 号 TEL075-212-2973 FAX 075-212-2916  
URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp  
社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋 2-36-1 ソフトタウン池袋 1101  
TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail shasou@macrovision.co.jp